

2024年度 学校関係者評価委員会報告書

学校法人経専学園
札幌ほいく専門学校
学校関係者評価委員会

1. 開催日

2025年7月23日

2. 開催場所

札幌ほいく専門学校

3. 学校関係者評価委員

	選任区分	人数	役職名
外部関係者	企業関係者	1名	認定こども園園長
外部関係者	卒業生	1名	福祉施設職員
学校側	学校教職員	2名	副校長、課長

4. 学校関係者評価委員会報告

①自己点検・評価報告及び討議・意見

※評価＝適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

(1) 教育理念・目標

(1)－①理念・目的・育成人材像は定められているか

自己評価： 4 、委員会評価： 4

学園基本理念である「学生第一主義」を念頭に置き、学生が就職3年後に「学校で身につけた専門的な基礎知識・技術を駆使しながら、社会人基礎力を磨き、職場で重要な戦力となり活躍している」ことを育成目的とし、これらをカリキュラムなどの教育内容に反映させている。

(1)－②学校における職業教育の特色は何か

自己評価： 4 、委員会評価： 4

教育目標に掲げる「専門職業力（専門職としての基礎力）」「社会人基礎力（社会人としての基礎力）」「高い職業意識と意欲（プロ意識と成長・自己実現に向けた意欲・力）」の現場力3要素を修得させるために、専門知識系科目と専門技術系科目及びその他必要な科目を体系的に編成し、座学、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。

(1)－③理念・目的・育成人材像・特色などが学生・業界関係者・保護者等に周知されているか

自己評価： 4 、委員会評価： 4

ホームページ、ガイダンス、各種説明会、年2回の保護者への通知等で周知を図っている。

○課題

・特になし。

○今後の改善方策

・特になし

○各評価委員からの意見・指導

・特になし

(2) 学校運営

(2)－①目的等に沿った運営方針が策定されているか	
自己評価： 4 、委員会評価： 4	
設置法人が定める運営方針に基づき、当該専門学校の方針、目標、組織体制を定めている。運営方針は経営推進会議にて検討し、各校副校長を通じて各職員に周知徹底されている。	
(2)－②運営方針に沿った事業計画が策定されているか	
自己評価： 4 、委員会評価： 4	
各校の重点課題目標に沿って、具体的な実施計画を策定している。毎月の取組みについては、各校副校長より常任理事を通じて報告し、経営推進会議にて状況把握の上、追加施策等を検討している。	
(2)－③運営組織の意思決定権は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	
自己評価： 4 、委員会評価： 4	
就業規則及び業務分掌表にて明確化されている。内容により理事会、経営推進会議、所属長会議、各校で行われる職員会議にて決定し、決定事項については原則全職員で情報共有している。	

○課題

・特になし。

○今後の改善方策

・特になし

○各評価委員からの意見・指導

・特になし

(3) 教育活動

(3)－①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	
自己評価： 4 、委員会評価： 4	
卒業までの授業科目計画及びシラバスが配布されている。年2回実施している教育課程編成委員会にて教育課程の見直し、追加、修正を行っている。	
(3)－②教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育達成レベルや学習時間の確保は明確にされているか	
自己評価： 4 、委員会評価： 4	
専修学校設置基準に定められた年間800時間以上、課程の修了に必要な総時間数1700時間以上を確保しており、学則に明記している。	
(3)－③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	
自己評価： 3 、委員会評価： 3	
カリキュラムは、保育士や幼稚園教諭等の資格取得の必須科目（法的に定まっている）と業界のニーズを踏まえた実技・実践科目から成っている。専門職業力、社会人基礎力、高い職業意識と意欲について修得目標を定め、それに基づき各学年毎のカリキュラム編成を行っている。	
(3)－④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	
自己評価： 3 、委員会評価：	
実技・実践科目のカリキュラムは、保育現場の意見を取り入れながら見直しを行っている。教育課程編成委員会を開催し、現場のニーズを確認しながらカリキュラム編成を行っている。また、幼稚園と養成校の懇談会や全国保育士養成協議会の研修、北海道私立専修学校各種学校連合会主催の教員研修等に参加し、定期的且つ組織的に工夫、研究を行っている。	
(3)－⑤授業評価の実施・評価体制はあるか	
自己評価： 2 、委員会評価： 2	

2019年度より、授業に関する質問を含む、学校生活全般に関するアンケートを卒業時に実施している。結果については、4点満点で、こども未来学科3.05、こども学科3.22であった。こども未来学科は昨年より0.31下回り、こども学科は0.1上回った。こども学科が学園平均(3.35)を下回っている。こども未来学科の学生数が21名と少なく、こども学科と比較してクラス内の雰囲気や、行事等での盛り上がり感に温度差を感じていたように感じる。

○課題

- ・学生数が少ない状況では、学生間でトラブルや不満等があるとクラスの雰囲気が悪くなり、満足度に影響するものと思われる。

○今後の改善方策

- ・学生数を確保するという事は、経営的な側面だけでなく、学生の満足度にも影響があると感じる。1クラス30名以上の学生を確保し、充実した学校生活を送ることが出来る環境を整える必要がある。

○各評価委員からの意見・指導

- ・特になし

(4) 学修成果

(4)－①就職率の向上が図られているか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

就職の多様化に対応すべく、学生の希望を尊重しつつ専門職のやりがいなどを伝え学生の就職支援を行ってきた。2024年度の結果は、卒業者90名、就職希望者90名、就職決定者89名で就職率は98.9%（昨年は98.1%） 専門職への就職者は87名であった。求人は非常に多く、学生にとっては恵まれた環境であるが、1名の学生が受験先を決められず採用内定を得られないまま卒業となった。

(4)－②資格取得率の向上が図られているか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

資格取得率の推移を分析し、資格取得率の向上を図る取り組み（単位修得を目的とする取り組み、単位実習をクリアするため取り組み）を検討し実施している。2024年度の資格取得率は、こども学科99.5%（昨年98.5%） こども未来学科100%（昨年100%） となっており、こども学科で1名幼稚園教諭免許未取得となっている。

(4)－③退学率の低減が図られているか

自己評価： 2 、委員会評価： 2

例年目標を設定しながら退学率低減に取り組んでいる。2024年度からは退学者0名の目標として取り組んできたが、結果10名と厳しい結果となり昨年よりは3名減少した。昨年よりは減少したものの進路変更や学力不振など、保育者を目指す気持ちを持続させられなかったことは残念である。

○課題

- ・就職については、多くの求人から受験先を決めることに時間を要する学生が増えていると感じる。
- ・退学については、1年次の早い時期に資格取得を諦めるケースや、些細な友人関係のトラブルから退学に至るケースも多い。

○今後の改善方策

- ・就職については、引き続き就業後の早期離職がないよう、ミスマッチを防止するような就職指導を継続する。いつまでも受験先を決められない学生については、求人は多くても就職できなくなることが実際にあったことを伝え受験を促していく。
- 退学については、引き続き出席状況など小さなサインを見逃さずに、悩みなどを抱えている学生へ早期の対応を図る。学習の習慣の乏しい学生については、学習計画を立てレポートや試験対策を余裕を持って取り組めるようにする。

○各評価委員からの意見・指導

- ・テレビや新聞で報道されている学校では、きちんと学習しなくても資格を取得している方がいるようで現場としては心配である。

(5) 学生支援

(5)－①進路・就職に関する支援体制は整備されているか	
自己評価： 4 、委員会評価： 4	
クラス担任、就職担当者によるダブル支援体制をとっており、全ての学生を専門職に就職させることを目標にしている。また、過去の就職試験内容が閲覧可能となっており、受験先に即した個別面接指導も実施している。就職希望調査により学生の希望を把握し、個々の状況に合わせた指導を行っている。基本的に就職活動に関しては、学生任せにすることはなく、学校が学生の状況をしっかり把握した上で、相互に納得した就職活動を行っている。	
(5)－②学生相談に関する体制は整備されているか	
自己評価： 3 、委員会評価： 3	
クラス担任は学生との個人面談を最低年2回実施しており、学生からの相談に対応している。また、事務職員を含む学校内の全ての教職員が積極的に学生に対して声がけを実施し、担任以外でも気軽に相談できる環境を目指している。	
(5)－③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	
自己評価： 3 、委員会評価： 3	
学校独自の奨学生制度や学費分納制度、経専学園学費応援制度など複数の支援体制にて対応している。近年、経済的に困窮している世帯も多く、学費納入に関して画一的な納入方法ではなく、個々の事情に合わせた提案を行っている。	

○課題

- ・学校としての対応に限界があるケース（家庭の経済事情、精神的な疾患など）が増えている。ケースバイケースでの対応で、時にはご家庭に判断を委ねる機会もある。

○今後の改善方策

- ・就職については、希望する学生全員をサポートする姿勢に変わらないが、職業選択について個人の考えを尊重し、ご家庭とも協議の上、学生にとって最善と思われる支援を行う。

○各評価委員からの意見・指導

- ・特になし

(6) 教育環境

(6)－①施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	
自己評価： 3 、委員会評価： 3	
個室のピアノレッスン室、電子ピアノ室、音楽室、手芸室、製作室、パソコン室、体育館、乳児保育室、図書室など専門的な知識・技術を習得するための設備は整っている。備品の購入、ピアノ調律は適宜行い、適切な学習環境を整えている。	
(6)－②学内外の実習施設について十分な教育体制を整備しているか	
自己評価： 4 、委員会評価： 4	
学内の実習施設については、カリキュラムに対応する内容を整えている。必要に応じて備品の更新を実施している。学外の実習施設については、単位実習基準を満たす実習先を確保している。単位実習前に少しでも現場を理解し慣れるという目的で実施している、保育演習や福祉支援演習では、予め受入れ先との詳細な打合せを行っている。	
(6)－③防災に対する体制は整備されているか	
自己評価： 4 、委員会評価： 4	
火災防火の為に組織及び自衛消防隊の組織編成を行なっている。年1回の消防訓練においては教職員に対して消火器訓練も実施している。	

○課題

- ・特になし

○今後の改善方策

- ・学校設備関係について経年劣化等をチェックするなど適切に管理していく。

○各評価委員からの意見・指導

- ・特になし

(7) 学生の受入れ募集

(7)－①学生募集活動は適正に行なわれているか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

北海道私立専修学校各種学校連合会に加盟し、募集開始時期・募集内容等、同会の定めた規則を遵守している。2025年度入学生は104名で昨年を21名上回る結果となったが、募集定員（160名）を充足できていない。

(7)－②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

自己評価： 4 、委員会評価： 4

カリキュラムや就職実績など正確な情報を受験者に提供することを心がけ、入学案内の内容は毎年見直しをしている。また、公表する数字の根拠を明確にし、誇大広告にならないよう自己点検している。

(7)－③学納金は妥当なものとなっているか

自己評価： 4 、委員会評価： 4

毎年、学科単位で経費をチェックし、人件費や諸物価の高騰等を鑑み学納金の見直しを実施している。その際、他校の学納金とも照らし合わせ適正度を確認している。

○課題

- ・18歳人口の減少に加え、保育・福祉分野希望者の減少が大きな課題となっている。保育・福祉現場で抱える人材不足に対応できていない。

○今後の改善方策

- ・学生募集活動の強化は、学園全体の最重要課題として取り組んでいる。保育者養成校の相次ぐ募集停止から非常に厳しい分野となっているが、満足度の高い学校生活と質の高い教育を提供し続け、高校生をはじめ保護者や高校教員に信頼され選ばれる学校づくりを行い、積極的な募集活動で募集定員確保を目指したい。

○各評価委員からの意見・指導

- ・各養成校の入学者実績等の情報が公開されており、学校により増減はあるものの、全体としては保育希望者は前年を下回っている状況から厳しい環境であることを再認識した。

(8) 財務

(8)－①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

2025年度入学生は、昨年を21名下回る104名の入学者となった。大幅な収支改善とはなっていないが、入学者増は今後の総在籍数増につながることから期待できる。姉妹校も厳しい状況ではあるが、学園全体での経営状況は、中長期的に大きな問題はないと考える。今後も広報活動に人材と経費を投下する方針としている。

(8)－②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

予算・収支計画は設置法人の総務財務部で一括整備・管理している。学校から提出された予算書を基にチェック・アドバイスが行なわれ、理事会での承認後、執行されている。

(8)－③財務について会計監査が適正に行なわれているか

自己評価： 4 、委員会評価： 4
私学振興助成法に基づく公認会計士（監査法人）による監査及び私立学校法に基づき、法人 寄付行為第34条による監事による監査を実施し、この結果を監査報告書に記載し、理事会 及び評議委員会へ報告をしている。

○課題

- ・入学者の確保が喫緊の課題である。

○今後の改善方

- ・学園全体での組織変更を行い、学園全体の広報活動を統括する部署を設置し、全職員で学生募集に関する業務を担うこととしている。学生募集に関する経費も増額し、募集定員の充足を目指す。

○各評価委員からの意見・指導

- ・特になし

（９）法令等の遵守

（９）－①法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか
自己評価： 4 、委員会評価： 4
法令を遵守し、適切な運営を行っている。
（９）－②個人情報に関し、その保護のために対策がとられているか
自己評価： 3 、委員会評価： 3
個人情報に関しては、細心の注意をはらうよう職員に徹底周知している。就職情報等についての公表資料については、学生より同意書をいただいている。
（９）－③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか
自己評価： 3 、委員会評価： 3
自己評価にて課題を発見し、改善方策を検討し実施している。

○課題

- ・特になし。

○今後の改善方策

- ・特になし。

○各評価委員からの意見・指導

- ・引き続き法令を遵守の上、学生を保育者へと導いてもらいたい。

（１０）社会貢献・地域貢献

（１０）－①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
自己評価： 3 、委員会評価： 3
学生の学びの場として地域の子どもたちを招き実践的な授業である「ほせんひろば」を開催している。
（１０）－②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
自己評価： 3 、委員会評価： 3
保育所、幼稚園、福祉施設などからのボランティア依頼は事務局が窓口となり、依頼があれば学生に周知、斡旋しているが、ボランティア依頼は少なく希望する学生も減少傾向である。
（１０）－③地域に対する公開講座、教育訓練（公共職業訓練を含む）の受諾等を積極的に実施しているか
自己評価： 3 、委員会評価： 3
こども学科（保育士コース）では、以前より公共職業訓練（長期高度人材育成コース）の訓練生を受け入れており、2025年度入学者は入学受け入れ可能人数上限の3名が入学した。

○課題

- ・特になし。

○今後の改善方策

- ・特になし。

○各評価委員からの意見・指導

- ・ボランティア希望者が減少傾向であるように、自己研鑽のための研修を自主的に参加する職員も減ってきている。時代の移り変わりなのかと理解しようと思うが、残念なことである。

以上